

平成27年度 地域志向教育研究プロジェクト推進事業 事業報告書 (全8ページ以内)

※番号 (記入不要)	21		
①プロジェクト名称:	街の達人発掘・発展学習プロジェクト		
②プロジェクトメンバー:			
学部学科・所属部署	氏名	役割	
基礎教育部 修学基礎教育課程	金光 秀和	リーダー	
基礎教育部 修学基礎教育課程	吉道 悦子	サブリーダー	
バイオ・化学部 応用化学科	大澤 敏	メンバー	
基礎教育部 修学基礎教育課程	夏目 賢一	メンバー	
基礎教育部 修学基礎教育課程	東 俊之	メンバー	
産学連携推進部 連携推進室	西川 紀子	事務担当	
③プロジェクトへの参加者数 (補助期間終了時)			
学部1～3年次生	研究室所属学生 (大学院生含む)	外部参加者数	
329名 (講演会参加者を含む)	0名	6名 (講演会・発表会参加者)	
④関連した主要授業科目名			
授業科目名	対象学年	必修・選択	対象学科
人間と哲学	1,2年	選択必修	全学科
	主な特徴: 授業の一部として西田幾多郎記念哲学館・山名田沙智子学芸員による特別講演会を実施。授業で学ぶ哲学が社会において果たす役割について考慮する機会を提供した。		
授業科目名	対象学年	必修・選択	対象学科
ドイツ語圏と日本	1,2年	選択必修	全学科
	主な特徴: 授業の一部として富山県射水市大島絵本館館長・前県立図書館館長・作家の立野 幸雄氏による特別講演会を実施。本と人生をテーマに、授業で学ぶような文化が人生において果たす役割について考慮する機会を提供した。		
授業科目名	対象学年	必修・選択	対象学科
有機化学	1年	必修	応用バイオ学科
	主な特徴: プロジェクトで得られた成果 (正課外) をメンバー (2年生中心) が下級生 (1年生) に正課の授業の中で報告して、授業内容と社会との関わりを示した。具体的には、売れるアイスの達人(店) の調査、アイスの成分分析を通して、それらの調査と授業内容が関係していること示して、授業内と社会との関わりを考慮する機会を提供した。		

⑤事業概要（800字以上1000字以内）

偉大な科学者・技術者や哲学者を輩出し、また学生と市民とが交流してきた歴史をもつ石川の地で、本プロジェクトは、学生と市民が科学・技術や哲学などさまざまなテーマで議論し、共に学ぶ場を創出します。

地域住民の中にはそれぞれの分野で達人と言われる方が埋もれています。本プロジェクトでは、学生が主体となって、①街の達人を探しに行き、②コンタクトを取り、交渉し、③旧ロゴスやアントレプレナーズラボ、23号館などでテーマを設定して座談会や勉強会を開催します。現在、各地でサイエンスカフェや哲学カフェなどの取り組みが盛んに実施されていますが、特に学生と市民との協働を重視する点が他の取り組みとは異なります。これまで本学のオーナーズプログラムとして実施してきた、「『哲学』を通じた教養の向上プロジェクト」（夏目）や「技術者のための経営知識向上プログラム」（東）を学外へと拡大し、市民と議論する場をもつことによって、学生は多様な視点を獲得でき、それを今後の学内外の活動にいかすことができます。また、このプロジェクトの運営を経験する中で、企画・立案力、さらには交渉力という「総合力」を学ぶことができます。「世代を超えて、地域の方々とどれほどの話ができるのか？」と学生はおそらく考えさせられることとなります。こうした経験が人間力の養成につながると考えられます。さらに、ここで培われた人とのつながりや学生の力は、地域との対話という形で卒業後も地域の活性化に貢献することが期待されます。

一方、地域住民にとっては、若い学生に接することで、人材育成・社会貢献・地域貢献という価値を見出すことができます。あるいは、自分の取り組みを他者に語ることによって、自身の新しい価値を見出すことができるでしょう。最終的には、④座談会や勉強会にお招きした街の達人の中から本学の正課の授業に参加していただける方を発掘することが目標です。そうすることによって、課外だけでなく正課の授業においても、地域連携・アクティブラーニングを推進することにつながり、何より教室の雰囲気が一変するはずです。

⑥地域志向教育研究プロジェクトの活動実績

●4月～1月 定期ミーティングの実施と予備調査の実施

前学期を中心にコアメンバーが定期的にミーティングを開き、各自が進めている達人発掘の進捗状況の確認、および授業で取り上げる達人の検討を行った（第1回:4月8日、第2回:5月22日、第3回:6月19日、第4回:7月3日、第5回:11月18日、第6回:1月7日）。たとえば、第3回では、第2回のミーティングで提示された「これまでに行ったことのないところへ出向いてみて、そこで誰かから話を聞いてみよう」という課題について、メンバーがそれぞれ訪れた場所（英会話スクールを実施しているレストランや金沢工大出身の人が営むカフェなど）を報告して、達人を発掘する手法などについて話し合った。また、第4回では、実際に各メンバーが予備調査をした結果を発表して、メンバー間でそれを発展学習につなげる可能性について議論した（貼付の写真を参照）。発表されたテーマは、①『企画人～高岡市のイベント企画と企画方法』（3FS1 小幡篤司）、②『あるカメラマン～モダンアートコンテスト優秀賞を獲得（2007・8年）』（3EM3 今井航平）、③『ソフトクリームのおいしさの科学』（2BC1 竹折拓哉・田原尚弥）といった多岐にわたるものであった。



●7月～1月 特別講演会の実施

コアメンバーによる調査と平行して、教員が企画して達人の話を聞く特別講演会を以下のとおり合計4回実施した。

第1回:『読書への誘い～本と人生～』(富山県立射水市大島絵本館館長、前県立図書館館長、作家、立野幸夫氏)[7月16日]

第2回:『停電の日英比較史からエネルギーの未来を考える』(ロンドン大学バークベック校専任教員、「エネルギーの物質文化」プロジェクト副代表、新広記氏)[7月31日]

第3回:『哲学と社会を結ぶ～西田幾多郎記念哲学館の活動～』(石川県西田幾多郎記念哲学館学芸員、山名田沙智子氏)[10月26日]

第4回:『加賀友禅の世界 その魅力と未来』(友禅作家 加賀友禅工房 文庵 伝統工芸士 太田正伸氏)[1月12日]



●12月～2月 達人の見つけ方・取材の仕方の講習会

金沢・東京を拠点として働くプロのライターを講師に、4回シリーズで「達人の発掘の仕方・取材の仕方」の講習会を行った。この講習会では、講義を聴くだけではなく、ディスカッション等の演習を行いながら、達人の見つけ方・取材の練習をして実際に発表会を実施した。

【講座スケジュール】

- ①12/16(水)5時限 達人の見つけ方(講座)
- ②12/24(木)5時限 見つけた達人はどんな人?(ディスカッション)
- ③1/6(水)5時限 取材の仕方(講座・演習)
- ④2/6(土)2時限 達人紹介(発表)



【講師】

ライターハウス(専務取締役) 竹本 鉄雄 氏

●2月 発表会の実施

上述の講習会を経て、2月6日に12号館1階アントレプレナーズラボにて発掘した達人について発表会を実施した。



⑦地域志向教育研究プロジェクトの具体的な成果

●達人発掘の授業に対する成果

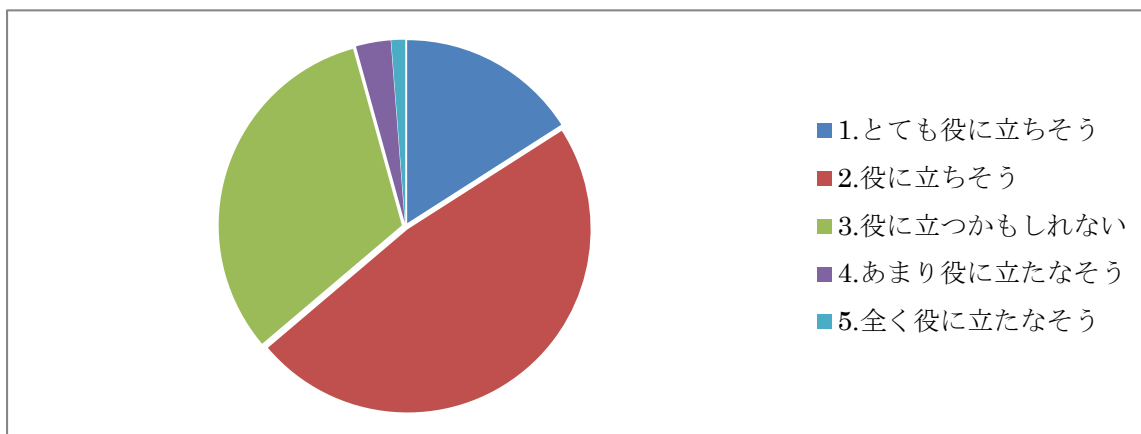
12月21日の有機化学の授業において、プロジェクト(2年生が中心)で得られた成果(正課外)を下級生(1年生)に正課の授業の中で報告することができた。具体的には、売れるアイスの達人(店)のアイスクリームの味や売れ行きを調査すると同時に、化学的に成分分析を行い、その結果を報告した。また、その後に大澤先生が物質の分析方法の講義を通常の授業として実施して、さらに今回の調査によって明らかになった倫理的問題についても考察する時間を設けた。これらによって、学生は授業内容と社会とのつながりについて具体的に考える機会をもつことができた。



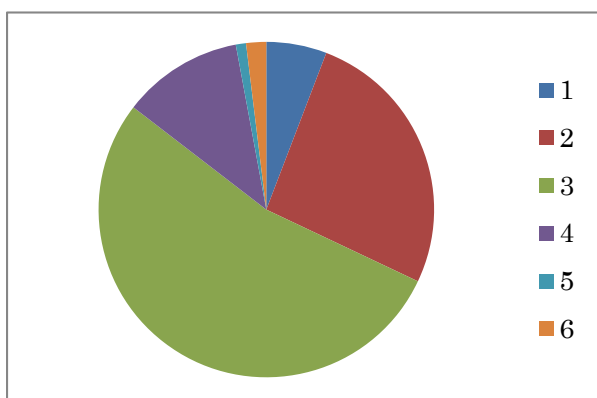
●特別講演会の成果

各教員が企画して実施した特別講演会についても、学生が授業内容と社会を結びつけて考える良い機会となったようであり、実施したアンケートでも達人の話が「とても役に立ちそう」、「役に立ちそう」とした回答が多数を占めた。(下記参照。第2回は諸事情によりアンケートを実施せず。)

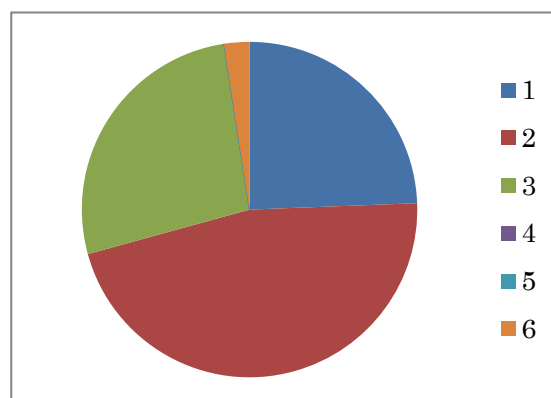
第1回特別講演会アンケート結果 (回答数 163)



第3回特別講演会アンケート結果 (回答数 103)



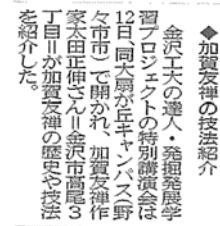
第4回特別講演会アンケート結果 (回答数 41)



また、立野氏、太田氏の講演会は地元新聞でもその様子が報道された。



2018.1.13 北國新聞 南



●達人の見つけ方・取材の仕方の講習会の成果

実際に3人の学生が達人を取材して、発表会のために資料を作成した。また、発表会での検討を反映させて最終的な資料を作成して、ホームページ上で成果として公開した。



なお、講習会に参加した学生は少数であったが、「取材を通して、話をまとめたり、インタビューの内容を書くことが勉強になった」、「メモの取り方がわかった。今まで一つ一つ正確にメモを取っていたため内容について考える時間がなかったが、大きな出来事や流れだけをメモするとよく考えられるとわかった」、「実際に外部に取材に行くことができて良かった」、「少人数だったのが手厚いサポートにつながってありがたかった」など、学生の表現する力や幅広いコミュニケーション能力を涵養する機会を提供できた。

⑧次年度以降の活動予定

本プロジェクトの中で、達人ではないが、身近なところで本学のキャンパスの美しさについて発表をした学生もいた。その学生はそれをきっかけに本学の水野一郎先生にインタビューを行って、本学の設計について話を聞く機会をもてた。

このように、定期的に座談会や勉強会を開催することによって、学生が能動的に学ぶ機会、しかも狭い意味での専門分



野だけでなく、それと社会との関わりを学ぶ機会をもつことができる。また、達人と呼ばれる方々にはそのような座談会や勉強会（場合によっては授業）への参加をボランティアでお願いし、それらとオーナーズプログラムなど学生の主体的な参加とをつなげることによって、今後も学生と地域住民が共に学ぶ場をもつことができると考える。

